

第3回羽曳野市総合基本計画審議会 意見と対応案

(頁数はすべて「基本構想素案」のもの)

No.	頁	項目	委員意見	事務局対応
①	17	現行計画の総括と課題	<ul style="list-style-type: none"> 職員アンケートの中で、他市に転出した職員に転出の理由を聞いているのか。 	<p>総計の職員アンケート調査の質問項目に、転出の理由に関するものではありませんでした。</p> <p>参考までに、人口ビジョン策定に向けて実施した市外へ転出された方へのアンケート調査によると、転出理由としては“仕事の都合”が最も多く(33.6%)、次いで“結婚”(22.4%)となっています。</p>
②	<ul style="list-style-type: none"> 転出者の内訳として、一戸建てから転出しているのか、借家から転出する人が増えているのか。 		<p>転出者アンケート調査の結果によると、転出前は持家が多く、転出後は民間借家が多い結果となっています。</p>	
③	<ul style="list-style-type: none"> 現行総計における人口目標割れの原因分析をもっとしっかりやるべき。 基本構想素案の17頁「(1) 目標人口」では、外部要因についての記述のみに終始している。表面的な分析ではなく、市として第5次総計の取組みの中で何が足りなかったのかという内的要因についての分析、自己評価を入れておいていただきたい。 		<p>内部要因の分析については、17頁「(2) まちづくりの目標」の冒頭に以下の文章を追加することとします。</p> <p>「第5次総合基本計画で掲げた目標に対する達成の度合いを分析した結果として、5つのまちづくりの目標ごとの成果と課題を以下に示します。」</p>	
④	20	めざすべき将来像	<ul style="list-style-type: none"> 自然、歴史・文化の部分で「時には災害を引き起こす自然も」とあるが、災害という文言と、その後のぶどう、いちじくを育む、というくだりとのつながりがありよくないように思う。「災害」を「豊かな自然」などに置き換えた方がよいと思う。 	<p>ご指摘を踏まえ、以下のように修正します。</p> <p>(段落変えて)「羽曳野特有の豊かな自然は、私たちの生活にうるおいをもたらし、ぶどう、いちじくなどのおいしい農産物を育ててくれます。」</p>
⑤	<ul style="list-style-type: none"> めざすまちの将来像について、「～みんなでつくる 誰もが住みたいまち～」とあるが、ニュアンスの問題として、「誰もが」ひっかかった。 「誰」をひらがなで「だれ」にするだけでも、印象がかなりやさしい感じに変わるのではないか。 将来像の中の「羽曳野」は前は「はびきの」だったが、今回はなぜ漢字になったのか。 		<p>ご指摘を踏まえ、以下のように修正します。</p> <p>(修正前)</p> <p>「ひと、自然、歴史文化を育み 笑顔輝く 羽曳野 ～ みんなでつくる 誰もが住みたいまち ～」</p> <p>(修正後)</p> <p>「ひと、自然、歴史文化を育み 笑顔輝く はびきの ～ みんなでつくる だれもが住みたいまち ～」</p>	

No.	頁	項目	委員意見	事務局対応
⑥	21	目標人口	<ul style="list-style-type: none"> ・109,000人は何のために目標としてもっているのか。数字の意味についての記述がない。2～3行でもこう考えてこう設定したというような推計方法の記載がほしい。 ・人口減少を食い止めるために総合基本計画を作っているわけではなく、あくまでも市民が住みたいまちをつくるのが目的で、結果的に人口減少が食い止められる、というのが基本にならなければならない。 ・「目標人口」の最後の段落の表現をもう少し主体的にできないか。終わり方を「～めざします。」という風に決意表明をしてほしい。 	<p>ご指摘を踏まえ、以下のように修正します。</p> <p>「このような厳しい予測に対し、本市は将来像に掲げるまちの姿を実現するため、さまざまな施策に取り組んでいく中で、平成37年の目標人口として約109,000人をめざします。」</p> <p>また、予測値の算出方法については、グラフの下に以下の説明文を追加します。</p> <p>「※予測値は、平成22年～27年の実績値に基づき直線回帰式により算出。」</p>
⑦	22	将来都市構造の基本方向	<ul style="list-style-type: none"> ・骨格軸と水辺とみどりのアメニティ軸、歴史軸と3つの軸があり、歴史軸だけ細いことに意味はあるのか。もう少し軸を太くするか、グラデーションにするか、デザインを工夫してはどうか。 	<p>ご指摘を踏まえ、デザインを修正します。</p> <p>(p22 参照)</p>
⑧	24 図	まちづくりの戦略目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「誰もが安心・安全に暮らせるまちづくり」の下は「安心・安全な暮らしの確保」となっており、表現が類似しすぎているように感じる。次頁の説明の中では福祉・医療、防災・施設など取組みの具体例が書かれている。「安心・安全な暮らしの確保」の代わりにこれらの具体例を用いて表現することで、羽曳野市が3つの柱で取り組む内容がそれぞれわかるようになると思うので、検討してほしい。 	<p>ご指摘を踏まえ、図を以下のように修正します。</p> <div style="text-align: center;"> <p>だれもが安心・安全に暮らせるまちづくり</p> <p>住み心地の良い定住環境の確保</p> </div>
⑨	25		<ul style="list-style-type: none"> ・「人口減少下の活力と成長に向けたまちづくり」の中に、「結婚と出産の促進」という記述があるが、これは行政が関わることなのかが気になる。 ・羽曳野市でも、子どもを産んでもらうために、「結婚・妊娠・出産・子育て」というルールは重要で外すわけ 	<p>ご指摘を踏まえ、以下のように修正します。</p> <p>「結婚・出産から子育てまでの各段階に応じた支援の強化や、就学前教育施設の整備とともに、」</p>

No.	頁	項目	委員意見	事務局対応
⑩			<p>にはいかないと思うので、促進という表現はいき過ぎとしても入れておいてほしい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「移住」という言葉の使い方が気になる。他の自治体と競争する、外国人をどんどん受け入れる、という意味に取られかねないので、言い方を考えて欲しい。 ・定住そのものを促進するという表現は言い過ぎである。住みたい、住みやすい環境を整えるという表現にとどめておかないと、他の市町村の人口をとろうとしているというような意味にとられかねない。逆にもっと攻めるということであれば、今の表現でもよいとは思う。 	<p>ご指摘の「移住」という表現につきましては、言葉本来の意味からすると確かに少し強い言い方を感じる箇所もありますが、国や他の自治体の政策用語として「移住・定住促進」という言い方がすでに定着している向きもあることから、いわゆる人口問題対策にかかる行政用語としての意味合いでの「移住」という表現を使わせていただきたいと考えます。</p> <p>一方で 25 頁の(3)◆産業・観光の文章表現については、前後のつながりを含めて見直し、全体的に修正をかけます。(25 頁参照)</p>
⑪	8	財政	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に異論はないが、25・26 年度の決算は既に出ている数字なのに記載がない。平成 27 年度までの計画であれば、それらの数字も追加すべきではないか。 	<p>ご指摘を踏まえ、追加・修正します。(8 頁参照)</p>